

PRESS RELEASE 2025.5.14

「驚異の部屋の私たち、消滅せよ。－ 森村泰昌・ヤノベケンジ・やなぎみわ －」 大阪中之島美術館にて2026年4月25日から開催

大阪中之島美術館は2023年末より、関西、そして日本を代表する現代美術作家3人が、ともにひとつの展覧会をつくりあげるという初の試みに伴走してきました。ポスト万博年となる2026年春、「驚異の部屋の私たち、消滅せよ。」と題し、森村泰昌、ヤノベケンジ、やなぎみわの3人展を開催します。

■ 作家プロフィール



森村泰昌 (もりむら やすまさ)

1951年、大阪市生まれ。大阪市在住。1985年に初めてのセルフポートレイトの作品《肖像／ゴッホ》を発表する。以降、「わたし」という一貫したテーマのもと、「なにものかに扮するセルフポートレイト写真」を発表し続けている。その制作は、モチーフとなる人物／作品について、念密なリサーチとジオラマ、スタジオセットの作成、コスチュームやメイクなどの過程を経るものであり、独自の視点から対象に迫ることによって、作品が完成する。また、映像、パフォーマンス、執筆など多岐にわたる活動を行なっている。



ヤノベケンジ

1965年、大阪府茨木市生まれ。1990年代初頭より、「現代社会におけるサヴァイバル」をテーマに機能性を持つ大型機械彫刻を制作。ユーモラスな形態に社会的メッセージを込めた作品群は国内外から評価が高い。2017年、「船乗り猫」をモチーフにした、旅の守り神《SHIP'S CAT》シリーズを制作開始。2022年に開館した大阪中之島美術館のシンボルとして《SHIP'S CAT (Muse)》(2021) が恒久設置される。



やなぎみわ

神戸市生まれ。女性をテーマにした写真作品で個展多数。2009年ヴェネチア・ビエンナーレ日本館で個展。2010年より演劇活動を開始し、「1924 三部作」を美術館と劇場で上演。「ゼロ・アワー 東京ローズ最後のテープ」で北米ツアーや台湾製の特殊車両「舞台車」による野外巡回劇「日輪の翼」を開始。2019年個展「神話機械」にて機械と演者が共演する「MM」を上演。20年には台湾オペラの演出も手掛けた。



■ 開催概要

展覧会名	驚異の部屋の私たち、消滅せよ。 – 森村泰昌・ヤノベケンジ・やなぎみわ –
会期	2026年4月25日(土) - 6月28日(日)
開場時間	10:00 - 17:00 (入場は16:30まで)
休館日	月曜日
会場	大阪中之島美術館 5階展示室
主催	大阪中之島美術館

本展に関するお問い合わせ

大阪中之島美術館 広報担当
E-MAIL : pr@nakka-art.jp
TEL : 06-6479-0550 (平日10:00 - 17:00)
〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1